

1 前提

該当する地域	県下全域
設定した経営規模	いちご(地床)21 a、梨50 a、水稻100 a
自家労働	2人
その他	

2 作付体系

年次	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目	^.....◎.....□□											
2年目		□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□											

○親株.....

凡例：○親株定植、.....育苗期間、^仮植、◎定植、——栽培期間、□収穫

3 施設機械装備

但し R = (1 - 残存割合) (単位：円)

種類	構造能力	面積 台数	取得価額	本作目 負担率	負担価額 (A)	償却額 (B) (A) × R	耐用 年数 (C)	年償却額 (D) (B) ÷ (C)	経過 年数 (E)	期首現在 価額 (F) (A) - (D) × (E)	自己資本 割合 (G)	自己資本 利子 (f) × (G) × 利率
作業場	木・瓦	30 m ²	1,890,000	60	1,134,000	1,134,000	15	75,600	8	529,200	100	21,168
ビニールハウス	6m×50m	7 棟	10,306,800	100	10,306,800	10,306,800	14	736,200	7	5,153,400	100	206,136
育苗ハウス	6m×50m	2 棟	2,944,800	100	2,944,800	2,944,800	14	210,343	7	1,472,399	100	58,896
トラクタ	4WD 20ps	1 台	1,645,350	20	329,070	329,070	7	47,010	4	141,030	20	1,128
ロータリ	140cm幅	1 台	321,300	20	64,260	64,260	7	9,180	4	27,540	20	220
かん水設備 (ポンプ等)		1 台	342,000		342,000	342,000	7	48,857	4	146,572	100	5,863
動力噴霧機	可搬式6ps	1 台	158,550	90	142,695	142,695	7	20,385	4	61,155	100	2,446
管理機	3.5ps	1 台	194,250	100	194,250	194,250	7	27,750	4	83,250	100	3,330
軽トラック	660cc	1 台	850,000	50	425,000	425,000	4	106,250	2	212,500	100	8,500
合計			18,653,050		15,882,875	15,882,875		1,281,575		7,827,046		307,688

4 技術体系 (10a 当たり)

作物名	品 種	栽培様式・作型	10a 当たり収量	ほ 場 条 件	作付面積
いちご	章姫	促成地床	3,300kg	砂畑、水田転換畑	2,100㎡

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準		10a 当たり作業時間			燃 料 消費量 (ℓ/10a)
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	機械利 用時間	組 人員	延労働 時 間	
親株床準備 (2a分) (耕耘) (土壌消毒) (ガス抜き) (基肥施用)	9/下～10/下	クロピク錠剤 わかとりふみん 苦土石灰 重焼燐	2000錠 160kg 8kg 8kg	トラクタ ロータリ	○親株床の準備 ア 親株床を耕耘する。 イ 土壌消毒を行う。 ウ 土壌消毒後にはガス抜きを行う。 エ 定植の一週間前には基肥を行う。 オ 炭そ病防除のため雨よけ育苗とする。	0.5	1	1.0	軽油 2
親株定植 (親株定植) (マルチ張り)	11/上	ウイルスフリー (VF)親苗 かん水チューブ	340本 400m		○親株定植と管理 ア VF苗及びVF苗から出たランナーをポットに受け、親株として利用する。		1	9.0	
親株管理 (かん水) (追肥肥用) (病害虫防除) (ランナー整理)	11/上～5/下	黒ボリマルチ 燐硝安加里S604 バルコート水和剤 バイコラル水和剤	850m 30kg 20g 8g	かん水装置 動力噴霧機	イ 親株を11月に定植する。 ウ かん水チューブを設置し、マルチを張る。 エ 適宜、かん水を行う。 オ 病害虫防除を行う。 カ 古葉、病葉を除去し、ランナーの配置を整える。		1	8.0	
ポット育苗準備	5/中～6/中	育苗9cmポリポット 育苗用土 育苗トレイ	9,000鉢 3,000リットル 900枚		○ポット育苗準備 ア 鉢土は無病で排水の良いものを用いる。 イ 育苗ポットに土入れをする。		2	38.0	
ポット育苗管理	6/中～9/中	キッポ青 メリット赤 アミスター207PF7P ダニトロンフロア バルコート水和剤 アントコル顆粒水和剤 バイコラル水和剤 グッター水和剤 バリアード顆粒水和剤	9リットル 1リットル 100g 200ml 100g 400g 40g 200g 100g	かん水装置 動力噴霧機	○ポット苗の管理 ア ランナーをポットに受ける。 イ 乾燥させないようにかん水を行う ウ 葉かきを適時行う。 エ 炭そ病を中心に病害虫防除を行う。 オ 液肥の追肥を3回、葉面散布を1回行う。 カ 梅雨明け後は寒冷紗でハウスを遮光する。	90.0	1	95.0	ガソリン 70.0
親株後始末	8/下				○親株処分 ア 本ほへの定植が終わったら、親株を処分する。		2	8.0	
本ほ準備 (土壌消毒) (土作り) (基肥施用)	7/下 8/下	わかとりふみん エッグエース バイオノ有機S	800kg 60kg 200kg	軽トラクタ トラクタ ロータリ	ア 還元土壌消毒をする。 イ 土作りを行うため堆肥を散布する ウ まんべんなく基肥を施用する。	5.0	1	15.0	ガソリン 1.5
(耕耘) (畦立て)	9/上	ミネパワーS ピッカリン 硫酸加里 アクタラ粒剤	20kg 80kg 20kg 3kg	管理機	エ 畦立てを行い畝で平らにならす。	3.0	1	9.0	軽油13.5
定植 (かん水) (寒冷紗被覆) (寒冷紗除去)	9/上～9/下 9/上 10/上	かん水チューブ 寒冷紗	850m 170m	かん水装置	○定植 ア 株間22cmとし、10a 当たり約7,500株植え付ける。 イ 定植後、十分にかん水を行う。 ウ 定植前に寒冷紗でハウス被覆し、苗が活着したら、寒冷紗を除去する		2	64.0	
						14.0	1	14.0	ガソリン 10.0
							2	8.0	
							2	8.0	
合 計								482.0	

技術体系

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準					
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	10a当たり作業時間			燃 料 消費量 (ℓ/10a)
						機械利 用時間	組 人員	延労働 時 間	
株管理 (かん水)	9/中～5/下	かん水チューブ	850m	かん水装置	○かん水 ア 活着まではかん水に努め、マルチ被覆までは畦の表面が乾かない程度とする。 イ マルチ被覆後は生育状況、土壌水分に応じてチューブでかん水する。	65.0	1	70.0	ガソリン 50.0
(摘葉、摘果)	9/下～			人力	○摘葉、摘果 ア 随時、古葉、病葉、ランナーの除去を行う。 イ 摘果は第一花房7～10果、第2花房5～6果程度にする。 ○二酸化炭素発生剤設置		1	309.0	
(追肥)	12/上～3/下	寝太郎	40袋						
		アミノキッポ733	40リットル		○追肥 ア 第二花房の開花時以降、液肥を適時追肥する。かん水と同時に行う。				
ハウス管理 (マルチ被覆)	10/中～5/下	黒ポリフィルム 内張ビニール	850m 160m	人力	○マルチ被覆、ビニール開閉 ア 出蕾までにマルチを張る。 イ 平均気温が16℃以下になる頃から夜間保温を開始する。 ウ 内張カーテンは11月下旬頃から開閉を行う。		4	133.0	
(ミツバチ搬入) (温度管理)	10/下 10/中～4/上	ミツバチ	3群	人力	○温度 ア 昼間23～25℃、夜間5℃以上に保つ。 ○病虫害防除 ア ハダニ、アブラムシ イ うどんこ病 ウ 灰色かび病 ハウス内の換気に努め、病葉、病果は取り除く。		1	1.0	
病虫害防除 (病虫害防除)	10/上～4/下	アクタラ粒剤 5 アミスター207フロアブル ベルコート水和剤 ロプラール水和剤 カクタス [®] ライフロアブル トリフミン水和剤 チェス水和剤 モスピラン水溶剤 ニッラン水和剤 マイトコーネフロアブル コロマイト水和剤 アフーム乳剤 ノーモルト乳剤 ニーズ(展着剤) スパイデックス スパイカルEX	8kg 400ml 75g 200g 400ml 75g 100g 100g 200g 200ml 300g 150ml 100ml 2,700ml 300ml 250ml	動力噴霧機	ア ハダニ、アブラムシ イ うどんこ病 ウ 灰色かび病 ハウス内の換気に努め、病葉、病果は取り除く。	18.0	1	45.0	ガソリン 13.0
収穫、調製	11/下～5/下			人力	○収穫、調製、出荷 ア 適熟になったものを早朝に収穫。 イ 出荷規格に合わせてバック詰めを行う。 ○出荷 ア 集荷場へ運搬する。		2 2	270.0 311.0	
出 荷	11/下～5/下			軽トラック		33.0	1	73.0	ガソリン 30.0
後片付け	6/上			トラクタ ロータリ	○後片付け ア 株を抜き取り、マルチをはぐる。 イ 畦をくずし、整地する。	4.0	2	36.0	軽油13.5
合 計								1,841.0	

5 経営試算(10a当たり)

区分	科目	金額	説明	
粗収益	主産物価額③	3,113,000	いちご 生産量① : 3,300 kg 単価② : 943 円/kg	
	主産物価額	0	生産量 :	
	主産物価額	0	生産量 :	
	副産物価額④	0		
	計 (A)	3,113,000		
生産	種 苗 費	112,030		
	肥 料 費	91,590	使用資材等は技術体系のとおり	
	農 薬 費	108,277	"	
	諸 材 料 費	200,993	"	
	動力光熱費	41,007		
	農 具 費	29,897	機械負担価額×4%	
	建物等修繕費	178,312	建物・構築物負担価額×1%	
	賃 料 料 金	0		
	共 済 掛 金	11,687		
	雇 用 労 賃	168,343		
	減価償却費⑤	610,274	別表のとおり	
	土地改良費	13,875		
	支払地代⑥	0		
	小計 (B)	1,566,286		
費	販売費一般	出荷資材費	212,117	
	管理費	販 売 諸 費	436,865	
		諸税負担金	10,724	農協賦課金、車検料、固定資産税
		事務研修費	11,767	農業新聞購読料、電話代
		支払利息⑦	1,284	借入資本利率2%
		小計 (C)	672,758	
経 営 費 (D)	2,239,043	注) (D) = (B) + (C)		
家族労働費見積額 ⑧	2,165,800	農 従 労 働 時 間 : 1,630.6 生産管理労働時間 35.4 1,300 円/時間		
支払利子・地代算入生産費(E)	4,404,843	主産物単位当たり 1,335 円/kg 注) (E) = (D) +⑧-④		
自己資本	流動資本利子⑨	75,866	注) ⑨= ((E)-⑤-⑦) / 2 × 0.04	
利子(F)	固定資本利子	146,518	利率4%	
自 作 地 地 代 (G)	17,810			
全算入生産費 (H)	4,645,036	生産物単位当たり 1,408 円/kg 注) (H) = (E) + (F) + (G)		
所 得 (I)	873,957	時間当たり 525 円 注) (I) = (A) - (D)		
所 得 率 (J)	28	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100		
農企業利潤 (K)	-1,532,036	注) (K) =③- (H)		
家族労働報酬 (L)	633,764	時間当たり 380 円 注) (L) = (I) - (F) - (G)		
農業資本利潤 (M)	-1,291,843	注) (M) = (I) -⑧		

